

るのも恐らく我等が初めてであらう事程左様に邊境の地帶である。
もとよりこの地一帯は白頭山頂の池に源を發する鴨綠江に沿ひ朝鮮と境を接した大密林地帶で地圖上にも白洲帶として未だに除外されてゐる祕境であるが豊富な天然資源に恵まれ殊に撫松縣一帶からは上海市場で年額千二百萬元を超える朝鮮人參等を產出するので、匪賊に取つてはこの上ない安住の地となり彼らは深山に兵工廠を持ち學校を建て或は土民から租稅を徵收するなど一種の匪賊王國を形成してゐたのである。

そこへ滿洲事變後は敗竄兵が遁入し不逞鮮人らと合流しソ聯邦並びに支那側の直接、間接の使嗾援助によつて全滿中最も惡質な反滿抗日の思想匪となり、しばり積極的に滿洲國治安を擾亂するので、全滿一齊に開始された徹底的匪賊殲滅の一部と

して昨年十月以來滿洲國軍が擔當行動を開始したのである。即ち滿洲國軍は建軍以來五年目に始めて日本軍の直接援助を借ることなく自己の力のみによる討伐を試みたわけである。従つてこの討伐こそは滿洲國軍の聲價の決定さるべきバロメーターであり我々が特にこゝを選んで從軍したのもさうした意味からである。

これ等の數字のみに従ふことは甚だ不十分だといふことを從軍してシミム感じた、それは單に匪賊討伐に強くなつたばかりでなく立派に國家の軍隊化しつゝあることである。滿洲の軍隊は舊軍閥時代には不良分子の集團として民衆から怨嗟の的となつてゐた、それが今では新軍意識に燃えて貧弱な裝備と極端な粗衣粗食に甘んじ地方民の信賴を得つゝ黙々として討匪行に從事してゐる實情を目のあたりにみて我々は驚異の眼を瞠つた、獨力で思想匪を立派に討伐したことはその軍隊化した具現の一つであるが匪影を求めて數週間密林中に露營したり、何等の不平もなく胸を沒する雪の深山を行軍したり、ために衣服は原形を止めぬまでに破けに満洲國軍側も兵を通じて三百名に近い死傷を出した、併し今日の滿洲國軍の價値を正當に評價するには

北部東邊道に於ける滿軍の討伐狀況並満軍全般の實狀觀察の爲來満した東京日々新聞、讀賣新聞、報知新聞三社の記者團一行に、奉天駐在の獨逸通信員ネーベル氏や新京放送局のアナ君が加つて、春まだ寒まぬ三月下旬討伐從軍の勇ましい出立ちで山城鎮より東邊道に入つたのである。そして通化、輯安、臨江、撫松四縣の討伐の實績は果して舉つてゐたらうか、農村の復興はどんな具合だつたか、軍隊と農民との關係は好轉しつゝあるだらうか、滿軍の素質と能力はどうだらう、特に日系軍官との活動はどうだらう。以下は從軍記者諸君の率直赤裸々なる體驗手記である。

滿洲國軍威力伸張

讀賣新聞社 神田特派員

しく見聞しようとドイツ特派員ヨハン・ネーベル氏を加へた五名の我

等新聞記者團一行は匪賊の出没横行する山城鎮から二百里白燈々たる山道を一個小隊の滿洲國軍に護衛されトラックに搖られながら柳河通過、輯安から朝鮮の滿浦鎮、慈城、中江鎮を経て臨江と飛石傳ひに四泊五日、内地では想像も及ばぬ困難を克服して今漸く松樹鎮に辿りついた、こゝは安東省撫松縣に屬し臨江から北に老嶺の峻嶮を突破して約二十里の奥地にある一寒村である。それが滿洲國軍の討伐進展に伴ひ第一線が著しく前進したため遽に芽を出した部落が即ちこの松樹鎮で日本人の顔をみ



しからぬ中央集権の統一的軍隊を再建すべく、その主目標を封建性の打破と國家觀念の涵養とに置いたらしい。而してそれがための人的要素として軍政部に顧問部を設けて關東軍司令部附の優秀なる日本將校を送り、その顧問部の下には軍政部の組織と並行して影の形にそふが如くに日本將校を顧問として配置した。そして一方においては一種の雇傭關係において豫後備の日本將校を軍事教官として部隊並に各養成機關に迎へ、更に他方においては、所定の銓衡に基いて豫備少尉を主體とする日本軍人の一團を統帥系統に基く純然たる満洲國軍人として編成内に入れて國軍の中堅たらしめたのである。

匪賊討伐等において率先衆を率ゐて屢々偉功を樹て、大和民族發展の一役となつた「日系軍官」とは、この人たちをいふのである。が、扱てお隣りの支那がそれを立證してゐるが如く、滿洲においても、顧問部と日系軍官の大理想に燃ゆる實踐躬行は滿洲國軍の素質を發揚せしめた。匪賊討伐における驚くべき成果も、大集團匪は勇猛比類なきわが皇軍が叩きくだいて分散せしめ、滿軍は必勝の壓倒的兵力を以てその分散匪を平定しつゝあること、背後に日本軍の無言の支援を感じつゝあるなども断じて看過し得ないことではある。

厄介視した感ある滿軍が、豫期以上の成績を擧げてゐることは愉快である。日本軍が匪賊討伐を中心とする滿洲國內の治安維持を滿軍に委ねて日本軍本然の任務に邁進し得る時期が、いまや到來しつゝあると私は斷定したい。

滿軍が日本軍以上に強くなることは困るなどの議論は、自己の力を信

斯くの如き組織に基き國軍化の具體的措置として採られたものは、まづ舊東北軍の改編である。軍隊の中から素質劣悪の不良分子を急速に篩ひ落すと共に、憲兵訓練處、並に中央訓練處を設けて康徳二年（昭和十二年）度から開始の新募兵と相俟つて再教育を開始したことである。すなはち、曾つての私兵の國軍化を舊分子の再教育と、新募兵の強化とに期待したのである。それは恰も明治新政府が、薩・長・土の討幕軍を以て差し當り新政府の基礎たらしめ、驍士を新募の百姓兵に置き代へて國軍を建軍したに酷似してゐる。

皇政の復古たる明治維新における皇軍建設と滿洲でのそれとは素より比すべくもない。が、その手段乃至経過は極めて近似せるものがある。その結果事變直後の亂脈時代から、

軍閥の巨頭が轉任する場合においては舊部下全部が尠くともその股肱を伴ふを常としたこの軍隊において于芷山、于琛濬等の大物の更迭が何事もなく行はれ、曾て軍隊の指揮官にとつては最大の收入であつた請負制度を根絶し得た如きは、それを證示して餘りあるものであらう。

卓越したリーダーを得たとき、素質あるものはその能力を顯現するものである。イタリトの場合やトルコの場合を例證するまでもなく、すぐ

じ得ない劣等人種の愚論である。

寧ろ私は滿軍をして日本軍と共に日滿國防の第一線に前進せしめ得るため、よりよきリーダーの充實、すなはち、顧問部の人的要素改善と、そして日滿兩國民の對滿軍觀念のは正、理解を擧げたい。既に悔悟して正道を踏みつゝあるものが、舊い

姿を評價されることの如何に堪へ難い苦痛であるかは人の知るところであらう。

滿軍はいまや國軍として更生しつつある。それを日滿兩國民が理解して温い手を差しのべてやることは、その更生に拍車をかける最善の途である。

東邊道の匪情と滿軍の健全なる發達

東京日々新聞社 廣瀬特派員

い招きを受けたのは二月末だつた、何事も經驗とばかり討匪行參加を決意して三月十日東京を出發、新京、奉天で準備をとゝのへ東邊道柳河縣山城鎮から、いはゆる匪賊地帶に足を入れたのが三月十七日である。

東邊道と稱するのは朝鮮と國境を

接する奉天、安東兩省の十六縣であるが、匪賊が蟠踞するのは奉天省の柳河、金川、輝南、濱江及び安東省の通化、輯安、臨江、撫松、長白の九縣である。元來東邊道は昔から「滿洲やくざ」の王國であつて、滿洲國各地の匪賊が漸次わが皇軍を中心とする討匪行によつて潰滅したにかゝらず、東邊道がなほ匪賊の王國として残されてゐるのである。

しかし今回の討匪はそれ自體が目的の全部ではなく滿洲國軍のみの手で斷行するところに國軍の價值検討の軍事的價値があり、これに續いて滿洲國の若い日系官吏が行はうとしてゐる復興事業に伴つて新しき農村經營の先決要件としてゐるところに政治的重大な意義を持つものである。滿洲國建國當時は匪賊との差もないほど素質の悪かつた滿洲國軍が爾來五ヶ年日系軍官の指導によつて、私

輕機關銃を運轉臺の屋根に構へて進軍してゐる、通化城を出れば白嶺々たる雪の山が四方から崩れ落ちる様に迫つてゐる、凡て一望千里といはれる滿洲にもこんな山岳地帶があるのかと驚かされた、早晩の寒さは痛烈だ、勿論防寒具は百パーセントに裝備したつもりだが、直接外氣に觸れる鼻など十分もたつと自分のだか他人のだかわからぬほど無感覺になつてしまつた、通化、輯安間一一六キロ、國道筋でさへ昨年の十月頃までは晝夜をわかたず匪賊氏が、運搬の物資はおろか、たつた一つしかない命までも黙つて頂戴出來た匪賊の樂土であつた、この滿洲の山崎街道も昨秋以來の討伐で大體臨江、撫松、濱江方面の山岳に「滿洲定九郎」を追ひ込んであるものの、食糧に困つて苦しさの餘り何時現れるかも知れぬ、通化を距る五九キロ、

閥排除、俸給制の確立にはじまり軍紀の振肅、教育、教練の向上によつて滿軍本來の使命である治安の責に任するには差支ない程度に改善を見たことは驚異である、特に日系軍官においては日系軍官すら皇軍の弟分として恥かしからぬと自負してゐる。この滿洲國軍が日系軍官指導の下に、獨力で昨年九月以來東邊道の討匪に從事してゐるが、轉戦七ヶ月、東邊道における匪賊を殘存推定七百名にまでした功績は十分認められるべきである。

山城鎮、通化間一四〇キロは東邊道中でも最も速かに治安が確立した區間で、鐵道總局經營のバスが一日一回運轉してゐるが、それでも白系ロシア人の總局警備隊が、警備車の上から銃を構へて四方の山々を睨みつけながら護衛してゐる。バスは柳

横路にある第〇旅の司令部に立ち寄ると、十八日夜國道北部の山岳内で約二十名の王鳳閣幕下の匪賊と遭遇して追跡して來たといふ歩兵教導隊の一隊と會した、王鳳閣といふのは通化、輯安兩縣を地盤として最近までは、部下一千名を擁してゐた巨匪首である、匪賊王國東邊道でもレツキとした家筋であるし、現存の匪賊の中でも彼と共產主義鮮匪金日成が雙璧である。

この匪賊の巨魁王鳳閣も去る三月二十七日東邊道臨江縣六道溝において王女子ともに捕はれ全滿を歡喜せしめたが、彼の匪賊業經營方針は甚だ大規模であり、組織的であつた、物資の動く要衝に置かれた各ブロツク擔當部隊は各自が獨立した會計を行ひ、王鳳閣は一定の納付金を仰せつけて生活してゐた、王鳳閣はこの外に政治部を組織してゐた、元

河縣城そのほか二、三ヶ所に停車して午後三時過ぎ通化に到着した、通化は東邊道第一の都邑、東邊道討伐司令部東邊道復興辦事處の所在地である。その夜討伐軍事顧問の石井少佐は記者に「通化を一步出れば所謂討伐第一線だ、萬一不幸にして匪賊に捕はれた場合には舌を噛み切つてでも死んでもらはねばならぬ、その覺悟があるか」と頭ごなしの嚴談だ、その夜は旅舍で「舌を噛み切れば本當に死ねるものか知ら」などと考へながら一夜を明した、十九日午前七時輯安に向けて愈々出發だ、東京から同行したK君、A君、それにドイツ青年のN君と輯安、臨江の各縣に赴任する復興辦事處の若い連中と共に軍用トラックの上に投げ上げられた、前には討伐と我々の護衛をかねて石島上尉（大尉）の指揮する騎兵第〇團に屬する二十名の兵が、

誰も彼もいはず語らず緊張してゐる様子がアリ／＼と見える、だが警戒の裡にも前夜の睡眠不足からか誰とはなしに假睡をはじめ、眼を開いてゐては到底見えられぬ老齢！こゝでわれ／＼は歸途遂に遭難した——も記者とA君と二人だけが哨戒して無事に越え薄暮韓安縣城に著いた、王匪地區を突破した一行は目下盛に交戦中の金日成匪の地盤である臨江縣に長驅するため同夜は氷結してゐる鴨綠江を渡つて朝鮮側に渡渉し平安北道滿浦鎮に上陸した、同夜は滿浦鎮に一泊、更に途中慈城に一泊して一四八キロを長驅して二十一日平安北道中江鎮に到着した、この對岸が滿洲國安東省臨江縣城臨江である、このあたりになると鮮滿國境鴨綠江も百メートルぐらゐに狹くなつてゐる、翌二十二日安東特務機關長田中申佐、軍政部調査部鷺崎第一科長、

誰も彼もいはず語らす緊張してゐる様子がアリ／＼と見える、だが警戒の裡にも前夜の睡眠不足からか誰とはなしに假睡をはじめ、眼を開いてみては到底越えられぬ老嶺——こゝでわれ／＼は歸途遂に遭難した——も記者とA君と二人だけが哨戒して無事に越え薄暮韓安縣城に着いた、王匪地區を突破した一行は目下盛に交戦中の金日成匪の地盤である臨江縣に長驅するため同夜は氷結してゐる鴨綠江を渡つて朝鮮側に渡渉し平安北道滿浦鎮に上陸した、同夜は滿浦鎮に一泊、更に途中慈城に一泊して一四八キロを長驅して二十一日平安北道中江鎮に到着した、この對岸が滿洲國安東省臨江縣城臨江である、このあたりになると鮮滿國境鴨綠江も百メートルぐらゐに狹くなつてゐる、翌二十二日安東特務機關長田中佐、軍政部調査部鷲崎第一科長、

同じコースを臨江に歸り更に朝鮮側江岸を満浦鎮に出て二十四日早晚吹雪を冒して輯安から同地に待機させてゐた二十名の兵に護衛させて通化に歸還の途中老徵の中腹では暴風雪となり峻険な上り八キロ山道を幾度か軍用トラックを押し上げて山頂近くに來た時、一軒の廢屋を發見した、検索すると前夜三名の者が焼をとつた形跡がある、匪賊の所業と確認してこれを焼き拂つたが、我々がこのやうに困難してゐるところを上から襲撃されゝばそれまでゝある、從前にも屢々前例があるので、石島上尉は八方に哨戒兵を派遣して准戦態勢をとつた、記者の胸中にも一瞬少年っぽい悲壯感が通り過ぎた、昨にたどりつくと、下りは眞つ正面に風を受けて吹き溜りの積雪は七尺、眼を開いてをられぬ暴風雪である。最早軍用トラックは放棄して約一二二

長島事務官等ともに臨江に渡つて、満軍の華と謳はれる靖安隊の護衛によつて交戦地區である松樹鎮に出發した。松樹鎮といふのは臨江縣城を北に距る約七〇キロ、老嶺—満洲ではその地方の最も大なるものを老嶺と呼ぶらしい一の嶮を越えて撫松縣にある山間の集家小落であるが、最近金匪に襲撃焼打ちされて復興しながらである。この途中は第一線中の第一線、銃聲も聞えようし道行く便衣の者の中には十人に一人は匪賊の密偵もあるであらう、愈々銃丸か舌かといふ事になつたが、現地の空氣に馴れてか誰も彼も案外呑氣に構へてゐる。護衛の靖安隊は輕機一臺に歩兵十五名、却つて王匪地區よりは減少してゐる。最近交戦した幾つかの現地を突破して松樹鎮に近づくと前日の遭遇戦に續いて同日も朝來松樹鎮を距る六キロの地點で金匪と

キロの大蚊子溝にたどりつくほかなしと決したがこの雪中、嶮路を果して無事に行けるや否や甚だ心許ないので食糧の用意とてもなかつたが握り飯を兵と共に分つて一個づゝ食べ各自が持つてゐたキヤラメル、チヨコレート類を全部微發して統制配給する事とし、二十名の兵のうち七名はトラックを匪賊に奪はれぬやう警戒のために山巔に残し、十三名の兵と、軽機一挺を護衛として峠間の道をやうやく大蚊子溝の集家部落にたどりつき牛櫓を見つけて更に横路の第一旅司令部まで五里の强行軍を餘儀なくされたが途中遙かに匪賊の密偵が徘徊するのを發見したものゝ自重して見過ごし、ひたすら横路に急いだが、横路を距る二里の地點で西空の明るみが失せ、しかも周圍は屹立する巖峰、匪賊には最上の地勢であり氣温は零下二十度以下に下り、

交戦中との情報を得た、われくは討伐隊に参加する下元部隊とも山中で遭遇した、金日成といふのは純然たる共産匪である、三十歳にならぬ若者だが、モスクワの共産大學の訓練を受けて臨江、撫松、濱江、長白等所謂未討伐地區に蟠踞して現在約五百の部下を持つてゐるらしい、現在では東邊道隨一の集結勢力である。

松樹鎮の討伐司令部は下山隊長の指導によつて朝來交戦してゐたが、記者の到着直前に匪賊は潰走したらしいので、盛に密偵を派遣してその後の情報蒐集に多忙を極めてゐた。前日の遭遇戦で捕へた金匪の捕虜が司令部の中の獄舎に足枷を入れ、首繩を付して放り込まれてゐるのを引き出して會見した、記者生活十一年、匪賊の一人と一問一答するのは初めての経験である。彼の話による

風は板ツペラで殴りつける様に痛い
誰も語るものもなく黙々としての行
軍である、遙かに馬蹄の音を聞いて
色をなしたが、巖塊の後より現れた
のは大蚊子溝からの連絡で横路の第

一旅司令部から派遣された救援隊で
あつた、救援隊の牽引して來た馬に
またがつて真つ向の空風を衝いてひ
た走りに走つて横路の部落に入つた
時には唇も凍つてものがいへなかつ
た。

その夜通化ではわれくの中に死
傷者を出したに違ひないと心配して
ゐたくらゐである、われくは僅が、特
に時間の苦難に過ぎなかつたが山頂、
に、残され、た七名の、トラック警戒兵は、
石島上尉の命令通りその後三日間も、
吹きさらしの山頂の雪中に露營して、任
匪賊と自然の暴威とともに恐れず、任
務を全うし、三名の凍傷者を出した、
記者は今回の討匪行は逃匪行の嫌ひ

があつたが、満洲國軍の健全な發達
を認め、未だ手をつけぬ濱江、三江省
は別だがその外の地方なら國道を畫

肅正途上の東邊道

報知新聞社 姉川特派員

手の柔い匪賊

満洲國軍の匪賊討伐へ從軍——とい
ふ勇ましい肩書で満洲名物『匪賊』
の本場、北東邊道へノコく出かけ
て來た。北東邊道とは朝鮮國境寄り
の奉天、安東兩省九縣で昨年の十月
から満洲國軍だけで匪賊討伐をやつ
てゐる山嶽地帶だ、こゝに今三千の
匪賊が蟠踞してゐる。『良い鐵は釘
にならぬ、良民は兵にならぬ』との
ことわざ通りに満洲國建國以前には

匪賊といふのはみな軍隊、軍隊とい
ふのは即ち匪賊で、満洲國中至ると
ころ馬賊だらけの有様だつたが、特
に東邊道が匪賊の本場といはれるの
はここから朝鮮人參や阿片の原料の
ケシが出たからだ、匪賊は農民から
稅金を取り立てるがその代りに他の
匪賊がケシ烟や人參烟を襲つて来る
のを防いでやる、つまり匪賊は日本
流にいへば土地の額役、やくざみた
いなものだ、やくざは遊び人だから

働くのが嫌ひなものがなる、だから
匪賊かどうかを調べるには手を握つ
て見れば分る、良民の百姓なら手が
固いが、匪賊のは柔かいさうだ、こ
んな工合だから匪賊商賣は乞食と同
じに三日すれば止められない。

匪首の王鳳閣

奉吉線の山城鎮から通化行きのバ
スに乗ると前後に白系露人の路警の
トラックが護衛につく、おまけにバ
スの運ちゃんまでバチンコを腰にぶ
ら下げてゐて匪賊地帶第一線の感が
深い、通化から輯安へ通する國道の
東方の山嶽地帶がかつてはこの地方
の大親分で有名な反滿抗日の匪首、
王鳳閣の潜伏してゐたところだ。王
鳳閣の山寨附近には立派な練兵場を
であつた、王の兵士は滿軍と寸分違
はぬ軍服を着てゐたので滿軍が同じ
部落に泊り合せてゐながら匪賊だと
は氣がつかず、翌朝出發して後に氣

がついて追つかけたといふ話しても
ある。彼の首には昔は二萬圓の賞金
がかゝつてゐたが日滿兩軍からの猛
烈な攻撃で今では女房、子供も打ち
すてゝ、僅か四、五十名の衛隊と共に
に山の中を命からく逃げ廻つてゐ
る有様だ、だから懸賞金も五千圓に
値下とはいから満洲式だ、匪首を
倒すとこの懸賞金の外に身の廻りの
金銀財寶ことくその者の手には
ひる、中には戰利品の匪賊の女房を
そのまま自分の細君にしてゐる兵隊
さんもあるさうだ。

惜しくば銃を置いてキリく退散致
せ」と大音聲で呼ばはつたさうだ、
名乗りは威嚇するためによくやる
が、大概インチキで、匪首が逃亡し
ようとする時には影武者が幾人も出
てあつちこつちで「ヤアく我こそ
は王鳳閣……」とやるさうだ。

通化へ着いたら「きのふ通化から
輯安へ行く途中の横路附近に二十名
の匪賊が現はれたぞ」と先づ脅され
た、王鳳閣の一味らしいが「ヤアヤ
ア我こそは紅軍第五團なり、日本軍
を撃退せること一再ならず、汝等滿
軍如きの討伐とは猪口才なり、命が
渡り萬浦鎮から中江鎮を経て臨江に

間に通行するのなら治安は先づく
確保されてゐることを認めた。

があつたが、満洲國軍の健全な發達
を認め、未だ手をつけぬ濱江、三江省
は別だがその外の地方なら國道を畫